環境パートナーシップちば

だより

— つながれ ひろがれ —

第１４４号
特定非営利活動法人
環境パートナーシップちば

℡：090-8116-4633
E-mail：info@kanpachiba.com
https://kanpachiba.com/

全国学生 SDGs フォーラム in ちば 開催報告

2022 年３月 12 日に、2030 年 SDGs 達成に向けて全国の学生が集まり、アクションを考えるフォーラムを、学生団体おりがみの協力を得てちば環境再生基金助成事業として開催いたしました。

全国の学生が繋がることで SDGs の関心を高める目的で、当初は千葉市生涯学習センター小ホールの会場としたオフラインとオンラインの併用という形でしたが、コロナ感染拡大を防ぐため、会場には運営スタッフと一部登壇者のみに変更しました。環境パートナーシップちばにとって、ユースを対象とした事業は、SDGs・ESD をひろげるための”ちば“拠点づくり事業の中で始めていましたが、今回は学生団体の協力を得ての企画・運営でした。

はじめに、全国学生団体の取り組み紹介として、「２０２０キャンドルナイトリレー実行委員会」の成瀬さん（早稲田大学）からの説明。全国の学生団体がキャンドルナイトをそれぞれのコンセプトで実施していくうちに自然と SDGs リレーのようになっていった、「みんなでやる意味」「できたこと・できなかったこと」から、キャンドルナイトが社会を担う学生の SDGs 達成に近づけるきっかけになるなどの紹介。

早稲田大学環境ロドリゲスの大島さんからは、「環境×（テーマ）」で、やまなび（里山）・Re-Cover（商品開発）・エコのわぐま（ごみ問題）・ REC(地域活性化)・ecoSMILE（教育）・うみさんぽ（海）の活動を実施していることの紹介。

岐阜大学 G-amet の豊川さんからは、活動理念・活動方針・キャンドルナイト リレーin 岐阜・緑化活動ハーバリウムづくり・鶴ヶ池自然再生プロジェクト・大学と SDGs（ワークショップ）・SDGs 公開講座・ISO 全国学生大会・古本市・丸池清掃等様々な活動の紹介。

Climate Youth Japan の石川さんからは、2010 年、COP に参加した日本のユースにより設立。ビジョンは、「ユースが気候変動を解決に導くことで、公平で持続可能な社会を実現する」主な活動は、毎年 COP に参加、ライフスタイル事業、エネルギー関連事業、政策提言などの紹介。

学生団体おりがみ環境チームは、「おもしろそう」から始まる共生社会を目指した活動が SDGs へ、の取り組み、キャンドルナイトリレー・エコメッセちばでの活動・ビーチクリーンの紹介。

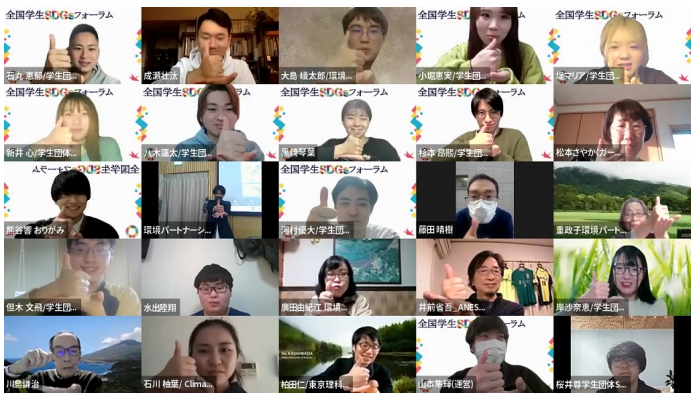
学生団体 SONE の櫻井さんからは、自然エネルギー100%達成を活動目標に 2021 年は、打ち水で涼しく大作戦・再エネ使用のイルミネーション・仕掛学プロジェクトの紹介。

学生団体 CHANGE の前田さんからは、「変革は対話から」のテーマで SDGs・核廃絶を目標に千葉県内の大学祭での展示・「SDGs ボードゲーム」・エコメッセちば出展・ユース会議参加の紹介。

以上から、参加者の SDGs につながる様々な活動が知れたことへの感謝の意見をいただきました。

SDGs 達成のためのアクションづくりは、９つのブレイクアウトルームに分かれて、SDGs ワークでアイディアづくり、キャンドルナイトワークで実際に企画を考えて、９つの多様な企画の発表を聞くことができました。また直前に会場参加に変更したお二人の消防士さんから、一緒にやりましょう意見と、事後のアンケートでもキャンドルナイトの活動に参加したいと多くの意見をいただいたところから、今後の活動に大いに期待したところでした。

（文責：鈴木琉瑠・横山清美）



SDGs・ESD をひろげるための“ちば”拠点づくり事業

第３回拠点づくり会議の報告

日　時：2022 年２月 21 日（月）13：30～15：30
場　所：オンライン（Zoom）開催
ファシリテーター：石井雅章氏　神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部　教授
主　催：NPO 法人環境パートナーシップちば
参加者：26 名（主に県南地域で活動している市民団体、事業者、行政）

プログラム：
①SDGs ちば拠点+ちば南拠点のホームページ案について
②ブレイクアウトルームⅠ：拠点ホームページの目的とどんな人が利用するか。そのための内容とデザインは？
③ブレイクアウトルームⅡ： 集まれる場のメリットとその活用ができる場とは
④ブレイクアウトルームⅢ： 拠点（のメンバー）だからこそできることってなんだろう？　今年すぐにでもやれそうなことはどれだろう？
⑤全体共有（今後の具体的なアクション）

まとめ：
SDGs 達成のための人づくりの場としての拠点を目指し、これまでの２回の SDG 拠点（仮称）づくり会議で意見を出し合ったことを踏まえて、ブレイクアウトルームを３回展開しました。
意見としては、「拠点はオンラインでもリアルでも良い」「ターゲットは「何かをしたい人、関心がある人」が重要」「今までやってきたことを一緒にやっていくことが、来年度のポイント！！」等でした。
出された意見やアイデアを具体的化する話し合いが、2022 年４月から始まります。それぞれの思いを出し、共有し、実際に動き出すことを始めます。　（文責：桑波田 和子）

SDGs 南拠点会議　開催します
参加者募集！！
（県南地域：市原市から南房総市で活動している団体、事業者他）

日時：2022 年４月 18 日（月）
13：00～15：00
会場：とみうら元気倶楽部
問い合わせ先：info@kanpachiba.com
携帯：090-8116-4633
会議呼びかけ団体：SDGs 南拠点会議（仮）・NPO 法人環境パートナーシップちば

ESD プログラム ブラッシュアップ研修会を開催しました

１月２９日（土）１３時半～15 時半の２時間、「ESD プログラムブラッシュアップ研修会」がオンラインにて開催されました。参加者は 17 名で、その中の 10 名の皆さんにそれぞれ「プログラムの実践報告」を紹介していただくことができました。
質疑応答を含め１人当たり８分と慌ただしく、「みんなでワイワイ」話してプログラムを深めるというところまで至らなかったものの、やってみてどうだったのか、などの生の声を共有することができたのは、大きな収穫だったと思います。
当日は、参加者はもちろんのこと画面共有やタイムキーパーなど役割も含め、多くの方の協力のおかげで何とか進めることができて、感謝でいっぱいです。小倉さんが「やりました報告」の提出をこまめに呼びかけてくださったおかげで、当日参加できなくても報告だけ送ってくださる方もいらっしゃいました。
この２年間は、なかなかプログラムを実施できない事も多かったと思いますが、そんな中でも活発に活動されている方の生の声は興味深かったです。制限された中だからこそ「体験」が求められているのかなとも思いました。
報告の一つ一つに質疑応答の時間が設けられず、ブラッシュアップというよりは「報告会」でしたが、関東 EPO の島田さんが急遽参加してくださったおかげでランクアップ！とてもありがたかったです。
今回のプログラムは、2018 年から 2020 年までの３年間、「ESD 地域リーダー人材育成のための『ESD プログラム』ガイドブック」として毎年１冊ずつ蓄積され、合計 44 あります。プログラムをＨＰなどで公開することで他の方が実施する参考にして使ってもらえることを願っています。　（文責：廣田 由紀江）

定例会を開催しました

環パ定例会の第２回を２月 10 日（木）、第３回を３月 10 日（木）、それぞれ午後８時～9 時 30 分、オンライン（Zoom）で開催しました。

第２回は 17 名の参加があり、簡単に自己紹介を済ませてから“会員同士で、今感じている問題や課題を踏まえて、来年度環パでやりたい事などを話し合おう”をテーマに４つのグループに分かれました。あまり知らない会員同士でも、少人数で顔を合わせると会話が弾み、様々なアイデアが生まれ、膨らみました。

全体としては、SDGs をわかりやすく伝えるツールとしてカードゲームの利用も有意義だ、現実的に行動をという焦りの気持ちがある、異年齢との幅広い交流をしたい、などが打ち出されました。

具体的にはキャンプ、植林、竹キャンドル作りなど、自然体験型の環境学習する拠点づくり、そのフィールドとして市原市はうってつけの資源、などの話が展開しました。学生から年配まで幅広いメンバーが集まったせいか、未来が展望できる明るい気持ちもおおいに引き出されました。

第３回目は１２名の参加があり、自己紹介後、ワンフロアで、全員で話し合いました。活動分野の近い者同士で接点を持ちたい、ボランティア、コロナ禍と温暖化による？身近な動植物の変化、居住場所や地域で SDGs を広げたい、産廃も自分事、など広く深い内容になりました。また、参加者でもある環境漫画家つやまさんの新作、『マンガでわかる！地球環境と SDGｓ』（学研）が紹介されました。

「自分の活動分野以外の活動に、体験参加しあう企画も」との声もあがり、今後も出会いやお互いの学びあいを大切にしていきたいと思います。

会員同士ならでは共感しうる話ができることは定例会の醍醐味です。来年度も開催を予定しています。皆様のご参加をお待ちしています。

（文責：中村　明子）

【オンラインイベント】２月 25 日（金）17:00～姉崎西口カフェバーK より配信

大人の学び舎 Job Cafe”K”を開催しました

ANESAKI ACADEMY 代表　井前省吾

テーマは「竹灯りの小路」、気になる素材は、竹（地域資源）と水とプラスチック（基幹産業）。これらがつながって、どんな新しい価値が生まれるか、Zoom で皆さんと妄想を拡げました。

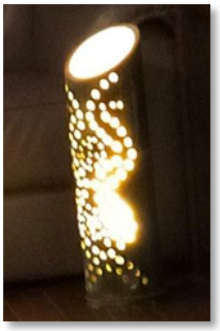
■前半（17:00-18:00）講座、Q&A：市原市企画部の高澤部長に『SDGs 未来都市いちはらの挑戦』と題してお話をして頂きました。

化学×里山×ひと⇒「サーキュラーエコノミー」「里山・アートを活かした持続可能なまちづくり」「すべての子ども・若者に夢と希望を」

※SSW：スクールソーシャルワーカー

■後半（18:00-19:00）妄想タイム：オンラインで付箋ワーク、みんなで創る市原版 SDGs カードゲーム、竹灯りで大いに盛り上がりました。カフェバー内に置いた農園を営むメンバーの試作品も良い感じでした。

今回は市の内外から多くの参加を頂きました。ありがとうございました。



協働のまちづくりセミナー

パートナーシップで課題解決力を高めよう

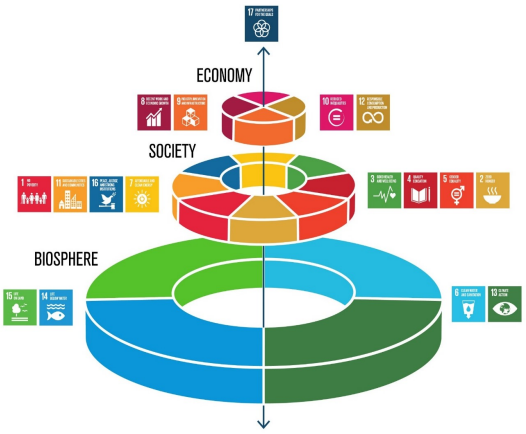
２月８日、千葉県主催の令和３年度協働のまちづくりセミナー（オンライン）「パートナーシップで課題解決力を高めよう」の講演「パートナーシップの築き方」で、当団体代表理事の桑波田和子氏が講演しました。環境パートナーシップちばの紹介・エコメッセちば実行委員会の取組・協働とは、の内容でした。エコメッセちばの取り組みから、協働のポイントとして、組織の見える化や無理しない運営体制、実行委員の参加の工夫などが話されました。協働には、お互いの立場を理解・共有するためにも、本音で話せる雰囲気づくりが必要とのお話に共感しました。

事例発表の㈱ソーケン製作所の斎藤氏「間伐材の活用による福祉貢献事業」では、ソーシャルビジネスプロジェクトの社会貢献から、ソーケングループの企業との協働、福祉事務所との協働により児童養護施設にプレゼントできる「関わる人が全て笑顔になる仕組み」の話がありました。

事例発表の二人目の平群（へぐり）ツーリズム協議会若林氏による「地域・都市連携による平群地区コミュニティの活性化」では、平群地区の活性化と環境の保全再生を目標に、平群ツーリズム協議会を設立し、取り組んだことは、コミュニティ活動の活性化・都市住民との交流促進・都市住民と協働した農産物利用が農地の活用から環境保全・再生につながっていること。特技や知識、やる気を持つ住民をもっと巻き込んでいく・学校や若い層への声かけなどの課題があると話されていました。

３人のお話の後、３グループに分かれて交流会での質問及び意見交換があり、終了となりました。

（文責：横山 清美）



J. Rockstrom & P. Sukhdev, Stockholm Resilience Centre
http://www.stockholmresilience.org/research/research-news/2016-06-14-how-food-connects-all-the-sdgs.html

関東ブロック地域 ESD 活動推進拠点研修会に参加しました

令和４年２月 22 日、オンラインにて関東ブロック地域 ESD 活動推進拠点研修会が開催されました。環境パートナーシップちばも地域 ESD 活動推進拠点に登録しており、当会からは桑波田代表、中村さん、廣田の３名が参加しました。10 地域において ESD 活動推進拠点に登録されている 14 団体、合計 28 人が参加されていました。

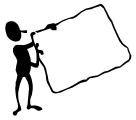
２時間半の研修は、関東地方環境事務所 服部課長代理のあいさつから始まり、SDGs/ESD の最新動向・環境省施策についての説明の後、１団体１分ほど参加者紹介、15 分ずつの事例発表が３つ、グループディスカッションと盛りだくさんの内容でした。

「地域 ESD 拠点として知っておいてほしい事例」として、フォッサマグナミュージアム/新潟県、NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット/東京都、一般社団法人里山こらぼ/埼玉県の３団体から発表がありました。気楽な気持ちで参加させていただきましたが、ただ圧倒されるばかりでした。

グループディスカッションでは、少人数のグループに分かれ「拠点間での意見交換」を行いました。私が参加したグループは、茨城、神奈川、東京の団体から各１名に関東 EPO の島田さんが加わってくださった５名でした。私たちのグループは、それぞれの団体の紹介や「学校とつながりたい」という話から、それぞれが学校とどのように連携をとっているかについて話題になりました。川崎市では、ESD/SDGs は５年生が必須であることなど、関東ブロック内の他の拠点の方々とお話しする貴重な機会となりました。ぜひもっと活動を知り、学ばせていただきたいと思いました。

（文責：廣田 由紀江）

県内の環境保全活動人（団体）紹介　―　63　―
おききしました！　この人・この団体



印旛沼の気持ちになって考えてみませんか？

まるごといんばぬまプロジェクト代表　浜田 靖彦

皆さんは印旛沼をご存じでしょうか？印旛沼には、汚い、怖い、というようなネガティブなイメージが定着しています。この状況に私たちは悲しみを覚えます。印旛沼の気持ちになって考えてみませんか？きっと印旛沼も悲しんでいると思います。

「まるごといんばぬま」という言葉のもとで、印旛沼に対するネガティブなイメージをポジティブに転換することが私たちの目標です。「まるごといんばぬま」の「まるごと」には、印旛沼の全ての生き物たちのありのままの暮らしを尊重して、皆が輪になって助け合い、活かし合う関係を作りたい！という願いが込められています。

まるごといんばぬま
ロゴマーク

この取り組みで印旛沼に対する社会の認識を変えていきたいのです。今の子どもたちは、印旛沼は汚い、怖いと教えられています。これを楽しい、面白いという言葉に置き換えると、子どもたちも関心を持って印旛沼に近寄ってくれるようになるのではないでしょうか。実際に水辺は美しく、楽しいところなのですが、近づいてみないとそれがわかりません。だからポジティブな言葉を使うことによって、地域の興味関心を惹くことにつなげていきたいのです。

私たちは、「まるごといんばぬま」への共感の輪を拡げるために、交流活動に力を注いでいます。カミツキガメやナガエツルノゲイトウ、オニビシといった、ネガティブに捉えられている生物をポジティブに捉え直して活用することをテーマにした交流イベントや、他団体との交流イベントを企画してきました。最近では印旛沼流域に留まらず、遠方の方々とのご縁も繋がっています。

昨年からはオンラインの交流にも取り組んでいます。今年は１月に WEB シンポジウムを企画して、活動報告と意見交換の場を持ちました。テーマは「人を繋ぎ・想いによりそい・未来へ紡ぐ」、参加者は６４名。治水や環境、まちづくりや子育てなど印旛沼周辺で様々な活動を行う方々に加え、地域の事業者や行政など産官学の皆が一堂に会する場となりました。このシンポジウムを通して、印旛沼を愛する人は過去からずっといること、その想いは時を超えて今も生きていることを知りました。人のご縁は時を超えて繋がっているのですね。シンポジウムのテーマである「人を繋ぎ・想いによりそい・未来へ紡ぐ」ことを、今後も大切に活動していきたいと思います。このシンポジウムの様子は YouTube で公開していて、まるごといんばぬまの Facebook ページでご覧いただけます。右の QR コードからご視聴ください。

まるごといんばぬま
Facebook ページ

「印旛沼の気持ちになって考えてみませんか？印旛沼はきっと『なぜ同じ地域に暮らす仲間を邪魔にしたり怖がったりするのだろう？認め合い、助け合いながら、楽しく暮らすことが出来れば良いのに・・・』と思っているのではないでしょうか。今までネガティブに捉えられていた印旛沼が、不思議とポジティブに見えてきませんか？」

この呼びかけは多くの人の心に届いて、楽しいご縁が繋がりました。このメッセージに共感してくださった人たちが、さらにそれぞれの立場で、感性で、ネガティブな情報をポジティブに変換して周囲に伝えてくださっているのだと思います。この共感の輪がさらに拡がって、いつかは印旛沼の心に届きますように。

〈オニビシイベント集合写真〉

運営会議報告

２月度運営会議

２月１０日（木）18:30～19:40
会場：オンライン（Zoom）

【報告】
- 地球環境基金事務局会議開催　1/17
- 第４回理事会開催　1/26
- だより１４３号印刷・発送
- ESD 地域リーダーブラシュアップ研修会開催 1/29
- エコメッセちば運営委員会　2/3
- 「全国学生SDGsフォーラムin ちば」打ち合わせ　2/1
- まるごと印旛沼シンポジウム　2/5　　他

【協議】
- ちば環境再生基金事業
  「全国学生 SDGs フォーラム in ちば」3/12
- だより１４４号　・定例会開催 2/10　　他

３月度運営会議

３月１０日（木）18:30～19:40
会場：オンライン（Zoom）

【報告】
- 令和３年度協働のまちづくりセミナー　2/8
- 定例会開催　2/10
- 若者プロジェクト発表会（富里市）2/19
- 地球環境基金事業　2/21・22 会議
- 関東ブロックESD 活動支援センター研修会　2/22
- 千葉市元気フォーラム　2/27　　他

【協議】
- だより１４４号進捗状況
- 定例会開催　3/10
- 印旛沼環境基金シンポジウム事業　10/9
- ちば環境再生基金事業
  「全国学生 SDGs フォーラム in ちば」3/12
- 理事会　3/22　　・通常総会　5/28
- 緑が丘公民館自主講座　　・他

お知らせ

第 5 回通常総会ご案内

NPO 環パちば第5回(令和4年度)通常総会を以下の日程で開催します。今回もコロナ対策を踏まえ、会場(15 名)とオンラインでのハイブリッド開催となります。

正会員のみなさまには、4 月末に詳細をご案内させていただきます。

開催日時:令和 4 年 5 月 28 日(土)
16 時～17 時 30 分
開催場所:千葉市生涯学習センター
研修室3
（千葉市中央区弁天3－7－7）

「協働のまちづくりセミナー」の動画配信

「千葉県公式セミナーチャンネル」において 2022 年２月に開催した「協働のまちづくりセミナー」の動画を配信しましたので、ぜひご視聴ください。

（１）「地域の担い手の増やし方」
影山貴大氏（（合）J-doc company 代表社員）の講演他、
URL：https://youtu.be/qeBQkMmtJkw（1 時間 40 分）

（２）「パートナーシップで課題解決力を高めよう」
桑波田和子氏（NPO 環パちば 代表理事）の講演 他
URL：https://youtu.be/_OzDyo5l93s（1 時間）

【問合せ】千葉県 県民生活・文化課県民活動推進班
電　話：043-223-4133
メール：npo-vo@mz.pref.chiba.lg.jp

「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ
事務局：〒262-0006　千葉市花見川区横戸台 21-13　特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば
el　：　090-8116-4633　　E-mail：info@kanpachiba.com
ホームページ：https://kanpachiba.com/
※会費や会員申し込みなどの情報は上記 ＨＰでご確認ください。